

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和7年2月分）

### 【製造業】

- 製造業は、12月の鉱工業生産指数は前月比2.5%上昇となった。ヒアリングでは、自動車関連が市販、OEMとも本来の売上に戻ってきており、為替差益も相まって売上が伸びたとの声がかえる一方で、自動車関連の受注は回復傾向にあるが、海外向け部品が現地調達に切り替わるため受注量は今後も伸びないと予想しているとの声がかれた。
- 地場産業は、12月の鉱工業生産指数は、家具、繊維工業、パルプ・紙、木材・木製品で上昇した。ヒアリングでは、物価上昇の世の中であるが、客単価上昇がなかなか見込めない状況との声や、海外メーカーとの価格競争は勝てる見込みなく、可能な限り回避していくとの声がかれた。

### 【設備投資】

- 設備投資は、1月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比4.7%増加となった。ヒアリングでは、在庫管理の効率化を目的に、各売り場と本部を繋ぐ端末の最新化を夏頃に予定しているとの声がかれる一方で、新規設備投資を行わず、修繕で対応するところが多いとの声がかれた。

### 【個人消費】

- 個人消費は、1月の販売額は、全体で前年同月比1.4%増加となった。ヒアリングでは、生鮮食料品スーパーは引き続き好調に推移しているとの声がかれる一方で、客数が多い、「グッズ雑貨」における客単価の減少が著しく、全館の客単価は前年比で9.6%減少しているとの声がかれた。

### 【観光】

- 宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前と同程度まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

### 【資金繰り】

- 1月の制度融資実績は、金額で6ヶ月連続で減少となった。例年年末は資金需要が増えるため、融資の取扱件数は年末に比べて減ったが、融資残高全体で見ると緩やかに増加しているとの声がかれた。

### 【雇用】

- 雇用面は、1月の有効求人倍率は1.51倍と4ヶ月連続で1.50倍を上回った。ヒアリングでは、新卒の採用について、学校を回っても、ただ「お願いします」では、関心を持ってもらえないため、企業訪問などを積極的に案内して説明しているとの声がかれた。また、今後の賃上げについては、最低3%は維持していきたいが厳しい状況であり、年間の休日を増やす事で実質的な賃金アップとする提案には、休日出勤が増えるだけとの主張も多く、組合側の理解を得るのが難しい状況との声がかれた。

### 【景気動向】

11月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲3.3ポイント、12月の中小企業の景況感  
は同▲2.0ポイントとなった。